

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年 3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは手足の守り神として有名な「足手荒神さん」のすぐ隣に位置し、小学校や住宅地の中、そして田園風景も広がる自然豊かな環境の中にあります。「小規模多機能事業所」との併設で、利用者間の交流や合同行事を行っています。また、地域のえんがわ「どぎゃんね」も同敷地内にあり、ダンス、コーラス、子育てなどの各サークルが日常的に利用があり、地域の方々含め、事業所にも気軽に訪問されます。医療面では協力病院が近くにあり、日々の相談、緊急時の協力体制が整っており、安心に繋がっています。また、同法人は自家農園を持っており、自家米、季節の採れたて野菜を毎食事に提供しており、「安心・安全・美味」と好評です。裏庭にも野菜を植えて、職員、利用者と一緒に収穫の喜びを味わい下ごしらえをして頂く事もあります。今後も出来る事、好きな事が安心して出来る暮らし、を支援して、地域の中でのGHの役割を考えたホーム作りに努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「足手荒神」のすぐ隣りに位置し、付近には住宅が立ち並び、すぐ近くには小学校もあります。このような環境の中で、暮れの餅つき会には、近隣の方々総勢150名も集まられたそうです。地元の婦人会や老人会の協力があり、椅子やテーブルについては、小学校からの協力があつたそうです。このように大掛かりな催しが出来るのは、事業所のこれまでの地道な努力と、事業所自体が地域から認められている証ではないかと思えます。その他に事業所は、日頃から職員と利用者・家族とのコミュニケーションづくりに取り組んでいます。家族会を組織しており、特に家族忘年会では家族会会長の奥様と管理者で手料理をつくり、和気あいあいの内に意見交換や家族の思いを聞く機会としています。とても良い取り組みだと思います。今後、益々発展していくことを望みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで考えた理念を掲げ、毎月のミーティングで振り返りを行い意識の統一をしている。朝の申し送り時に「理念と行動指針」の唱和を行い、一日の始まりに気持ちを引き締めている。	理念は5項目から成り、サービスを行うにあたっての心構えが謳われている。見やすい玄関ホールとダイルームそれぞれに掲示され、朝の申し送り時には「理念と行動指針」の唱和を行っている。また、毎月のミーティングでも振り返りを行い、意識の統一に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	餅つき会、敬老会など行事の際は必ず呼びかけに行い多数の参加協力をいただいている。また、小学校行事への誘いもあり参加して交流をはかっている。	年末の餅つき会は、婦人会や老人会、また近くの小学校の協力なども得ながら大盛況のうちに行われている。総勢150名位の方が集まったとのことである。また管理者と職員2名は、毎週金曜日に小学校で行われているフッ素うがいボランティアに参加している。その他、法人には農園があり、お米の栽培を行っている。その関係で、かんがい用水のための井手掃除にも担当の職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の実践をいかして、認知症の知識、対応、認知症の方の身になって考えるなど、講演や、勉強会を通じて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回は開催しており、入居者の状態、活動の状況、勉強会の内容報告を行い、積極的に意見交換し、要望など話し合っている。せっかく参加いただいた機会に、とサービス向上に向けて、その場でも理解を深めて頂いている。	会議は奇数月に行われている。メンバー構成は老人会長、民生委員、社会福祉協議会職員、利用者、利用者家族、施設長、職員となっている。ただ、こここのころ利用者の参加については、だんだん難しくなってきたとの話も聞かれた。会議の内容としては、利用者の状況や事業所の取り組みなどについて報告し、意見や助言をもらっている。また、せっかくの機会を利用して、認知症予防エクササイズの紹介や、福祉施設の種類やその役割などについても紹介している。	運営推進会議は、事業所の内容や取り組みなどを知ってもらう良い機会です。今後とも、認知症介護のワンポイントレッスンを取り入れたり、またメンバーのこれまでの貴重な経験を少し披露してもらおう場とするなど、工夫してみるのもいいのではないかと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居に関する報告や相談をその都度行っている。運営推進会議の報告も資料提出というかたちで行っている。ケアプランについて、年に1回は町の担当者からのチェック、指導があり、気軽に相談、話し合っている。	運営推進会議の議事録の提出は、管理者が役場に出向いて行っている。また年に1回は、町の保健師によるケアプラン作成上のチェックや指導もあり、お互い気軽に相談し、話し合える関係を築いている。入居に関する報告や相談、また事故などについてもその都度速やかに行っている。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、介護従事者共に研修に参加し、ミーティングなどで共有、周知徹底を図っている。転倒の危険性の高い方もおられるが、拘束をしない方法を考え、取り組んでいる。	毎月のミーティングでも、必要に応じて取り上げるようにしており、管理者、職員が県などの研修会に参加した場合などは復講を行い、共有・周知徹底に取り組んでいる。また、介護職を始めた頃の言葉使いの失敗が、今でも頭にあるそうで、日々の支援の中で教訓として生かして日頃の接し方に気をつけているという話を職員より聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者共に研修に参加し、ミーティングなどで共有、周知徹底を図っている。職員間でも注意しあえる環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、介護従事者共に研修に参加し、ミーティングなどで共有、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明行っている。疑問に思うことや不安に思うことは理解されるまで説明行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と利用者・家族とのコミュニケーションを、日頃から図っている。家族会、家族忘年会を行い遠慮のない意見交換、家族の思い、を聞く機会を設け、言いやすい雰囲気作りに努めている。苦情処理ノートを作成して、情報を共有し、職員にもケアの質の向上に繋げている。	事業所は家族会を組織しており、併設の小規模多機能型の事業所と合同で年に2回程家族会を開催している。1回は敬老会でもう1回は家族忘年会を行っている。忘年会の案内状は家族会長が手配され、当日の料理については会長の奥様と管理者で、おでんや唐揚げ、サラダなどを手作りしている。参加者も20名近くあり、和気あいあいの内に進められ、家族の思いや意見を聞きたい機会にもなったようである。	家族忘年会は、とても良い取り組みだと思います。今後とも、家族とのコミュニケーションの場として発展していくことを願っています。また家族からは、なかなか本音は言いにくいということを肝に銘じ、何でも言える環境づくりも合わせて行ってください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフとのコミュニケーションを大事にして、事あるたび、話しやすい雰囲気の中でモチベーションアップに繋げている。定期的にスタッフとの面談を行っている。	昨年の9月に管理者の異動も行われており、年に2回の個別面談のほかにも、事あるごとに職員とのコミュニケーションを図っており、話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。また「職場の雰囲気は良く、何でも話しやすいです」という話が職員から聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を行いながら個別面談を実施し、個人のレベルのあった目標設定し、意欲を持って働けるよう、それを賞与に反映している。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内研修の実施、外部研修へ参加している。そして、月1回のミーティング時には、自ら勉強会を開催、他人に伝える事で自身の成長に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内の研修会に定期的に参加しており、同業者同士の意見交換、情報交換行い施設にも取り入れ、質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の情報からニーズを探り、思いを汲み取るようにしている。何度も聞きながら信頼関係を築き安心して繋がるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から、家族の困っていること、要望・思い等を汲み取るようにしている。日々の活動や生活の様子を見ていただき、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、当事業者だけでなく、法人全体のサービスや、その他の介護サービスを視野に入れた初回面談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される役割(本人)、介護させていただく役割(職員)を十分理解した関係で、共に同じ時間を過ごしている、という思いで成関係が立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護される方を中心に、職員と家族と一緒に本人を支えている気持ち、家族しかできないこと、職員が出来る事、それぞれをわきまえて支援している気持ちの関係を築いている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から親しんでいる「足手荒神さん」の参拝や散歩の際の地域の方からの声掛け、触れ合いで笑顔が見られる。表札から昔の方々の名前が出て昔話に花が咲くこともあり、記憶がよみがえったりする。散歩を積極的に行い、なじみの人や場所との関係が続くように努めている。	事業所は、日常の散歩支援に力を入れている。そんな中、近くの方が「私は妹さんと同級生だったんですよ」など、地域ならではの会話が、利用者の記憶を蘇らせることもあるとのことである。また「足手荒神」と隣りに位置していることもあり、大祭に来られたお友達が顔を見せられることもある。その他、甥子さんの床屋に通われたり、甥、姪の面会がある利用者もおられ、関係継続を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル座席の位置にも配慮しながら、入居者同士の関係が上手くいくように、気持ちよく過ごせるように心配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、死亡などで一旦、契約が終了しても、また別の相談や、別の事業所での契約に繋がる場合もあり、その時々で精一杯の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	住居時は把握できていなかったことでも徐々にコミュニケーションがとれて、本人の思いが理解でき、要望に沿うように努めている。気付いたことは情報を共有し、家族の意見など交えながら、利用者本位のケアに努めている。	入居時は、なかなか対応が難しい場合もあるようだが、そういう場合でも家族にお願いして、専門医を受診することで、病状が改善し、今では花見にも行けるようになった例あるとのことである。日々寄り添い、傾聴する中で気付いたことはケース記録や申し送り帳に記載し、家族の意見なども交えながら利用者本位のケアに取り組んでいる。「目線の高さを同じか低くして、手を握りながら意思疎通を図り、必ず納得してもらおう様取り組んでいる」という話が職員から聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族との会話の中から、これまでの生活の様子や、習慣、好きな事嫌いな事などの情報収集に努め、安心に繋げるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、出来る事や本人の好きな事を把握して、ケアに反映させている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回はスタッフでモニタリングを行い、状態を把握している。日頃から家族、本人の希望・要望を聞いておき、介護計画に反映している。	介護計画作成前に本人、家族の希望や要望を必ず聞き取る様にしている。その上で、管理者とケアマネージャーでアセスメントを行い、ADLや医師の意見書、直前の計画などを参考に、現状に即した介護計画を作成する様にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたことは、ケース記録に記録してスタッフ間で共有している。細かいところまで話し合い現状にあった介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の状態、家族の希望を考え、法人内の事業所、又は他事業所と協力してサービス提供にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が畑で採れた野菜の差し入れだったり、遊びに来られたりして、なじみの顔を見せていただくことで、地域の一員として楽しく暮らすことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態が一番よくわかっているかかりつけ医は家族、本人の希望を確認しながら支援している。協力病院以外は、家族の受診協力をいただき、手紙、又は口頭にて報告を行っている。できない場合は職員が同行している。認知症専門医受診は6名である。	現在、内科的には全員の利用者が協力医をかかりつけ医とされている。月に2回は協力医の看護師による定期訪問も行われており、また夜間の対応も連携が速やかとのことで、家族の安心にもつながっている。協力病院以外は、家族の付き添いをお願いしているようだが、“今日受診して欲しいが家族の都合がつかない”場合や家族が遠方の場合には、職員が対応している。また、歯科を定期受診される方が1名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とはいつでも気軽に相談が出来、必要なアドバイスもあり早期の対応に気を付けている。必要時は看護師の顔を見るだけでも安心する様で、Dr受診ではないところでも気軽に安心に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態変化に気づき、入院や退院後の生活をシュミレーションを行い、病状の観察をしている。病院関係者との調整、情報交換に努め、日頃から本人の意向、家族の意向などを考えた関係作りに努めている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年齢や本人の状態を見て、本来の本人の性格、生活の様子から、終末期のあり方、家族の意向等を確認するようにしている。家族とコミュニケーションをはかり、信頼関係を築いた上で事業所で出来る事を十分に話し合い、納得をいただき医療、看護、介護等関係者チームとなり支援している。	現在までのところ、看取りの実績はない。本人の年齢や状態を見て、終末期の在り方について家族の意向などを確認してみることがある。家族とのコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いた上で、事業所として出来ること、食べられる限りは支援を続けるとの方針のようである。看取り支援を行うかどうかについては、現在のところ結論は出ていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会に於いて救急法を、又、新人職員については「夜勤者の心構え」として緊急時の対応について個別に勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・避難訓練を実施しており、日頃から安全についての意識付けを促している。運営推進会議でも、参加の声掛けを行っている。備蓄品リストを作り、食品については消費期限を考えて準備している。	火災避難訓練は、年に2回実施しており、1回は設備業者立ち会いのもと行われている。事業所には3ヶ所に緊急避難用のスロープが取り付けられている。また、運営推進会議でも声掛けを行っており、近くの民生委員には参加してもらっている。夜勤を行う職員の話では、夜勤に着く前に「このような場合には、まずこの人を起こして、この人から脱出する」という風にシミュレーションを行っている。非常時の備えについては、飲料水、インスタントラーメン、お米、カップめん、乾パンそれにカセットコンロなどをおこなっている。	よくテレビに出ている防災アドバイザーは実際の災害を前にすると、訓練以上の力を発揮することは難しいと言っています。訓練に取り組む姿勢と、日頃の防災意識の再確認をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護・高齢者虐待防止法、身体拘束の廃止の研修参加後、管理者より再度研修報告行っている。それ以外に言葉掛けについては、日頃から尊厳を重視し適切でない時には気軽に注意しあう、また、素直に聞く環境作りに取り組んでいる。	何気なく使ってしまう不適切な言葉かけについては、職員同志で注意仕合い、素直に聞く環境づくりに取り組んでいる。ある職員からは「その人の生活歴や家族の状況を考慮すること、利用者同志の関係悪化の場合の対応、また排便の事や不安になることなど、利用者が知られたくないことに配慮することが、人格の尊重につながる」という話が聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自立支援」に向けて本人の思いを悟り、自己決定できる雰囲気働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間など、その人のペースを大事にし、スタッフが余裕を持った気持ちで対応している。家族にも情報収集し希望に沿うように努めている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本的に本人に決めていただくが、又は選択しやすいように提案している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物も楽しみの一つで、スタッフと一緒に余裕を持って出かけている。食材について好みの調理方法を聞いたり、出来る下ごしらえ、皮むき、好みの調理方法等を聞きながら準備したり、茶碗を拭く等の手伝いをしていたりしている。三度の調理を行うことで、食欲増進を図っている。	週に2日は調味料や魚・肉などの買い出しに出かけており、利用者も同行される。その他、いもやジャガイモの皮むき、茶碗拭きなど一緒に行っている。また誕生会では、本人の希望でいきなり団子を50個作ったということであった。からいもの皮むきをする人、切り役の人、捏ねるなどの様々な役割の人などの協力作業で、とてもおいしく・楽しく誕生会が出来たとのことである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態、食事量、栄養バランスに気を付けて支援している。水分摂取については好みに気を付け、偏らないよう糖分にも注意しながら楽しんで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時がうがい、毎食後の口腔ケアは徹底しており、一人一人の力に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を行っている。認知症の進行から認識が薄くなるがちな方には、その仕草や、表情からトイレへお連れするようにしている。失禁による不快感や経済的負担を少しでも軽減するように努めています。	排泄がほぼ自立している方が1名、その他の利用者についてはひとりひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄パターンとしては、時間による支援のほか、車イスから身を乗り出す、おなかが痛む、食事を食べないなどの固有のサインがあるということである。また、夜はリハパンでも昼は布パンツで気持ちよく過ごして貰える様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事、水分等なるべく薬に頼らないように、また内服の影響など考えて対応している。必要な時は下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2、3回の入浴を行っている。本人の状態に合わせて、楽しみの部分と清潔保持の部分とを使い分けているが、好みや季節、生活習慣に合わせた楽しみ方にも気を配っている。	入浴回数は、週に2～3回を予定しているが、必要な場合にはその都度対応するようにしている。また楽しく入浴できるように、しょうぶ湯やゆず湯の支援も行っている。入浴時の支援には、まず転倒しないように注意すること、シャワーの温度は自分の手にかけて確認し、足から徐々にかけるようにしていること、強く擦らないこと、また寒い時期は下から脱いで上から着せることを心がけているという話が職員より聞かれた。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠に繋げる為にはどうしたらいいか、スタッフそれぞれが考え、日中の過ごし方の情報の共有をしている。本人の生活習慣を考えた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気の理解と処方されている薬をスタッフ自身が勉強して、状態の変化があるか、ないかを常に観察している。変化があり、本人にとって困ることがあればデータをとり、担当医に報告、相談して、その情報をスタッフ同士が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の出来る事を意欲を持って出来るように、またそれが「楽しい」「気分転換になった」と思ってもらえるように、一人一人が、無理をせず苦にならないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気等に応じ、積極的に散歩に出掛けている。散歩を兼ねた買い物や、協力病院への定期受診も車椅子を押し歩いたりして、季節を感じていただく為に、なるべく歩いて行くようにしている。遠くへの外出行事は、手作り弁当持参して家族も一緒に出掛けている。計画の段階から希望する場所、その他の情報を家族、入居者に聞くことから始めている。	事業所では、買い物や協力病院への定期受診などを含めて、日常的な外出支援に力を入れている。隣りに“足手荒神”があることも気分転換やストレス発散には打って付けであり、また遠くへの外出行事の場合には、手作りの弁当持参にて、家族にも声掛けて参加を募っている。利用者は全員参加されている。桜の花見以外にも、コスモスやアジサイ見学にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	玄関先に自動販売機があり、好きなコーラを買うのが楽しみの方がいるし、買い物ケアとして、買い物に行き自分で選び、レジでお金を払う事に付き添っている。家族に理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用は可能である。誕生日等に遠くの家族からプレゼントが届いたりしたら、お礼の電話をして、直接話してもらったり、手紙や年賀はがき等を書いていただいたりしている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には絶えず花を飾っており、飾り付けも季節を感じさせるように配慮している。不快に思われないよう、匂いにはアロマ等に対応している。共有スペースの居間は南側に面して裏庭が広く、日差しが奥まで差し込んでくる。裏庭には菜園、玄関先の花壇には花植えをして一緒に手入れしてもらっている。	利用者の皆さんが集われるダイルームは、春の陽光が差し込み、とても明るく穏やかな空間となっていた。庭には桜や梅が植えられており、当日は梅の花が満開の時期を迎えていた。また、室内環境にも配慮しており、除菌噴霧器や加湿器を配置し、感染予防に努めている。異臭などは全く感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がお好みの居場所があり、それぞれに同じ環境でくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた見覚えのある家具、布団、家族写真等が居室には飾っており、安心して過ごすことが出来るような環境作りに努めています。	基本的な居室の設備は、ベッドと空調機器となっている。寝具や家具、その他の調度品については使い慣れたものを持参してもらう様、話しをしている。現在、入居しておられる利用者の中には、家族写真を飾ったり、テレビを置いたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームがある方、ない方は本人の希望によって決めている。名札を確認して居室がわかる方、場所でわかる方、自由に行き来しながら、手すりを使って安全に移動して頂くようにしている。		